



共創共育

～共に作り、共に育ち育てる～

岐阜市立白山小学校PTA

岩田好弘 篠田文平 富成正人 広瀬容子 高間直美
大島ひろみ 尾田有華 藤木功 土屋恵美



【1】白山小学校の概要

白山小学校は、来年創立110周年を迎える歴史ある学校です。

校風は『健知』『健心』『健体』で、具現化に向け、『みんなでつくり楽しい学校』を合言葉に、教育活動を行っています。

校庭には、オオバヤナギの木があり、毎年春になると綿のような花を咲かせるため、『わたの木』と呼ばれるようになりました。『わたの木』は、戦時中焼夷弾が落ちたため幹が半分に裂け、瀕死の状態でしたが、地域みんなの力で復活を果たし、今なお力強く生き続け、葉を広げる姿から白山小学校のシンボルとなっています。

【2】PTA活動の見直し

白山小学校は、歴史ある学校故にPTAの仕事も新しいものが追加され続け、気が付けば役員の負担が大きくなっていました。

いざ、それらの仕事を廃止しようとする『子どものために』続けろ！！という意見も。

でも、今の状況に鑑みて、あまりに合っていない。どうしたらいいのか。

そもそも、PTAは同じ立場の保護者が集まりボランティア活動するのが目的はず。

それが、いつしか執行部で何もかも進み、会員の声が届かなくなっている現状が見えてきました。

組織は、全体で動くもの。会社も同じ。

『PTA=子どものために』は、皆同じ。

だからこそ、組織・集団にある『2:6:2の法則』。

『出来る人2:普通の人6:出来ない人2』を意識し、**全員参画型の風通しの良いPTA**を目指して。

それがテーマ『共創共育～共に作り、共に育ち育てる～』の誕生です。

【3】PTA活動の新しい取組み

まずは、今までの流れを大きく変えないよう、運営自体は執行部が中心となって行ないますが、会員の声を聞きやすくするために、新しい事案毎にトップダウンからボトムアップへと切り替えていきました。

白山小学校では、参観日の後にクラス懇談会が行なわれます。その場を議場とし、学年委員さん司会のもとPTA活動の意見・要望を受ける場としました。

保護者は、子ども1人に対し1回は役員を受けるので、経験者としての意見もたくさん出ました。

みんなが思っていたこと。『PTAは大変』。

大半の人が『大変』という印象を受けている。

でも、変えようとしな。いや、出来ない。

『仕事を変える・減らす=悪』の雰囲気があり、周りの目を気にしてしまう。

でも、懇談会を議場とすることで役員・委員関係なく事案に対して、賛成・反対それぞれの意見を、それぞれが共有しあい、勝ち負けではなく、理解し協力しあうことが出来ました。

『PTAは大変』と思われませんが、『大変』という字は『大きく変わる』と書きます。『大変』と思う今だからこそ、PTAも大きく変わる時だと思えます。

【4】子どものために

活動の見直しは大切ですが、『子どものために』の活動は、これからも増やしていきたい。

それを実行するために、PTAと切り離れたひとつの団体が、『はくさんPTO(応援団!)]です。

PTA会員の中にいる『出来る人2』を集め、『出来る人が、出来る時に、出来るだけのことを!』を合言葉に地域行事に率先してお手伝いをしています。

地域の方から見たら、『PTA』も『はくさんPTO(応援団!)]も同じ保護者と見てもらえ、協力的なPTAに映ります。

こうして、PTAとしての立場と協力的な人の活躍の場を設け強化していくことで、小学校と地域との繋がりを大切にしていければと思います。

【5】ボランティアのリレー

白山校区には、たくさんのボランティア団体があり、小学校を中心に数多くの行事を開催しています。

そのボランティア団体の幹部は、PTA役員経験者が多く、子どものことを一番に気にかけてくれます。

ボランティアのリレーが繋がっているからこそ、子どもたちが元気に安心して通える、今の白山小学校があるのだと思います。

私たち保護者もそれに続き、次の人、次の世代、将来のことを考えて行動する事が大切だと思います。

【6】最後に

私たち保護者は、子どもを小学校に通わせている今だからこそ、子どもと同じように、集団の中で学び、育ち育てながら、今に合ったPTAを作って行く必要があると思、『共創共育～共に作り共に育ち育てる～』を掲げ進めてきました。

やり方について、賛否色々分かれると思いますが、これからもPTAが生きた活気ある団体として、末永く発展していくことを願っています。

このPTAテーマを理解し協力してくれた、白山小学校PTA会員全員に感謝です。